
ブレグジット後における EU 主要乳製品貿易に関する一考察

— バターおよびチーズを事例として —

平岡祥孝(札幌大谷大学社会学部地域社会学科)

要旨

小稿の課題は、ブレグジット後の EU 酪農部門における乳製品貿易の状況に関して、バターおよびチーズを事例として移行期間に焦点を当てつつ分析をすることにある。2016年6月24日、英国では国民投票の結果、EU 離脱が決まった。そして、2020年1月31日をもって、英国は EU から完全に離脱した。生乳生産大国であった英国が EU 酪農部門から離れた後も、EU の酪農産業は極めて重要な位置を占めている。27カ国体制下における酪農部門の現状を解明すべく、バターとチーズの貿易量を分析するとともに、将来的な EU 酪農部門の見通しを考察した。EU 酪農部門は英国離脱後も、成長の可能性が予測される。

I. はじめに

本研究の課題は、連合王国(the United Kingdom, 以下、英国と記す)の欧州連合(the European Union, EU)離脱以降における EU 酪農部門を解明する一環として、EU の主要乳製品の貿易実態を分析するとともに、EU 酪農部門の将来的な見通しに関して分析することにある。

英国では国民投票の結果、2016年6月24日、英国の EU 離脱が確定した。いわゆるブレグジット(Brexit)である¹⁾。歴史を振り返ってみるならば、英国は三度目の加盟申請で、ようやく1973年にデンマーク(Denmark)、アイルランド(Ireland)とともに、当時の欧州共同体(European Community, EC)に加盟した(EU 第一次拡大)。それは、英国が関税同盟(Custom Union)や共通農業政策(Common Agricultural Policy, CAP)²⁾を全面的に受け入れて、欧州大陸市場に参入することを意味した³⁾。逆に言えば、EU は域内市場規模を拡大した。ドイツ、フランスに次ぐ生乳生産大国であった英国を組み込むことは、EU 酪農部門を強化することになったとも言えよう⁴⁾。

移行期間を経て英国は、2020年12月31日に EU から完全に離脱し、2021年1月1日から自由貿易協定(Free Trade Agreement, FTA)が暫定的には発効した。その結果、英国と EU との無関税貿易は継続されている。英国の構成国としての期間は43年間であったけれども、食料・飼料輸入を EU に大きく依存してきた。英国の食料・飲料・飼料の対 EU 域内諸国貿易額(2019年)を見るならば、輸出141億5,500万ポンド(£)に対して、輸入336億7,300万ポンドであった。さらに牛乳・乳製品及び鶏卵類に限定するならば、輸出15億500万ポンドに対して、輸入32億9,200万ポンドであった⁵⁾。EU 予算分担問題では各加盟国の負荷が増すものの、英国は依然として、EU にとっては魅力的な域内市場である。それゆえ、英国と EU の貿易依存関係は維持されるであろう。

EU 構成国であった英国の酪農業は、EU 酪農部門の一翼を担ってきた⁶⁾。だが、英国が EU を離脱した現在、言うまでもなく EU 酪農部門は英国抜きで成り立っている⁷⁾。それでは、EU 酪農部門は如何な

る状況であるのだろうか。小稿では、英国を除く 27 カ国体制の EU 酪農部門を対象として、乳製品貿易の視点から分析したい。まず、英国の移行期間において、主要乳製品であるバターとチーズの貿易実態を貿易量の面から整理したうえで、両乳製品の市場需給に関して分析する。そして、今後の生乳生産動向の分析を通して、EU 酪農部門を考察したい。

II. EU バター貿易

まず、EU のバターの生産量と消費量を確認しておきたい。たとえば 2020 年では、生産量 241 万 t、消費量 216 万 7,000 t であった。生産量・消費量ともにインドに次ぐ世界第二である。ちなみにインドは、生産量 630 万 t、消費量 628 万 7,000 t であった⁷⁾。次に、EU のバター輸出入量を見ていきたい。表 1 は、英国を除く EU 加盟国別バター輸出量(2017~2020 年)を、表 2 は、英国を除く EU 加盟国別バター輸入量(2017~2020 年)を、それぞれ示している。

表 1 によれば、EU 構成国にあってアイルランドが、バター輸出量では首位となっている。アイルラ

表 1 EU 加盟国別(除く英国)バター輸出量(2017~2020 年)

	2017	2018	2019	2020
	(千 t)			
ベルギー	9.2	6.4	12.7	17.5
ブルガリア	0.0	0.0	0.0	0.0
チェコ	0.1	0.0	0.0	0.1
デンマーク	16.3	22.1	21.4	29.8
ドイツ	12.8	10.0	16.8	14.7
エストニア	0.2	0.0	0.2	0.3
アイルランド	31.3	31.0	50.6	94.7
ギリシャ	0.0	0.0	0.0	0.0
スペイン	0.7	0.6	0.9	1.8
フランス	32.9	31.5	33.4	40.4
クロアチア	0.4	0.4	0.4	0.4
イタリア	0.4	0.3	1.1	1.9
キプロス	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
ラトビア	0.1	0.0	0.2	0.2
リトアニア	0.7	0.5	1.8	4.8
ルクセンブルク	0.0	0.0	0.0	0.0
ハンガリー	0.0	0.0	0.0	0.8
マルタ	0.0	n.a.	n.a.	n.a.
オランダ	14.9	14.5	23.0	29.9
オーストリア	0.1	0.0	0.0	0.0
ポーランド	3.3	1.8	6.4	12.8
ポルトガル	2.5	1.6	1.1	5.0
ルーマニア	0.3	0.1	0.1	0.3
スロベニア	0.1	0.0	0.1	0.0
スロバキア	0.0	0.0	0.0	0.0
フィンランド	4.1	3.5	4.6	5.5
スウェーデン	0.2	0.2	0.1	0.0

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021 年 9 月)を参考に作成。

表2 EU加盟国別(除く英国)バター輸入量(2017~2020年)

	2017	2018	2019	2020
	(千t)			
ベルギー	3.3	3.0	1.7	13.2
ブルガリア	0.0	0.0	0.0	0.1
チェコ	n.a.	n.a.	n.a.	0.0
デンマーク	2.3	2.2	2.6	1.5
ドイツ	0.0	0.0	0.0	0.4
エストニア	n.a.	n.a.	0.0	0.0
アイルランド	n.a.	0.0	0.1	3.8
ギリシャ	0.0	n.a.	n.a.	0.0
スペイン	0.0	n.a.	0.0	0.4
フランス	0.4	0.6	0.0	2.5
クロアチア	0.0	n.a.	0.0	n.a.
イタリア	n.a.	n.a.	n.a.	0.7
キプロス	n.a.	n.a.	n.a.	0.1
ラトビア	n.a.	0.0	0.0	0.0
リトアニア	0.0	n.a.	n.a.	0.0
ルクセンブルク	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.
ハンガリー	0.0	n.a.	n.a.	0.0
マルタ	0.0	n.a.	n.a.	0.1
オランダ	1.8	5.7	1.9	5.1
オーストリア	0.0	0.0	n.a.	0.0
ポーランド	0.4	0.3	0.2	0.2
ポルトガル	n.a.	n.a.	n.a.	0.0
ルーマニア	0.1	0.0	0.0	0.1
スロベニア	0.0	0.0	n.a.	0.0
スロバキア	0.0	n.a.	0.0	n.a.
フィンランド	n.a.	n.a.	0.0	0.0
スウェーデン	0.0	0.0	0.0	0.0

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021年9月)を参考に作成。

ンドは輸出志向のバター生産国であろう。バター輸出量(2020年)では、アイルランド9万4,700t、次位のフランス4万400t、そしてオランダ2万9,900t、デンマーク2万9,800t、ベルギー1万7,500tが続く。生乳生産量では首位のドイツは1万4,700t、旧東欧諸国最大の酪農国であるポーランドは1万2,800tである。

表2では輸入量数値が完全に把握されていないけれども、ベルギーやオランダは一定数量のバターを継続的に輸入していることが見て取れる。ベルギーでは、2019年では1,700tであったが、2020年では1万3,200tと、約7.8倍近くまで急激に輸入量を増加させている。オランダも2019年の1,900tから2020年では5,100tと、約2.7倍増加している。

それではEU域外国とのバター貿易量は如何なるものであろうか。表3はEU域外バター輸出相手国(2017~2020年)を、表4はEU域外バター輸入調達国(2017~2020年)を、それぞれ示している。

表3から明らかなように、英国が一貫して輸出相手国として首位の位置を占めている。次位は一貫して米国である。そして2020年では、サウジアラビア、中国そしてモロッコと続く。しかしながら、注目すべき点は、英国への輸出量が減少傾向を示していることである。2017~2020年の期間において、それ

表3 EUバター域外輸出相手国(2017~2020年)

	2017	2018	2019	2020
	(千t)			
英国	76.0	73.5	64.8	59.5
米国	26.5	27.5	33.0	33.7
アラブ首長国連邦	4.9	4.2	11.9	6.2
中国	8.0	7.9	10.3	14.6
トルコ	3.8	1.7	9.8	4.9
サウジアラビア	8.6	10.7	9.0	17.7
日本	4.0	6.1	9.0	5.3
シンガポール	6.1	7.4	6.8	6.4
モロッコ	2.7	3.5	6.4	10.2
エジプト	3.1	0.8	5.7	8.0
韓国	2.6	3.2	5.2	7.7
インドネシア	2.8	2.4	4.8	3.2
台湾	4.1	3.6	4.7	5.1
イスラエル	1.9	1.7	4.3	7.8
レバノン	3.5	3.4	3.2	1.9
その他	47.8	41.0	50.9	64.9

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021年9月)を参考に作成。

表4 EUバター域外輸入調達国(2017~2020年)

	2017	2018	2019	2020
	(千t)			
英国	20.9	26.5	40.1	26.8
ニュージーランド	4.8	5.9	3.7	0.7
ウクライナ	2.3	3.9	2.1	0.0
米国	0.6	1.4	0.3	0.2
シンガポール	n.a.	n.a.	0.1	n.a.
アイスランド	0.1	0.2	0.1	0.1
中国	n.a.	n.a.	0.1	0.0
ベラルーシ	0.0	0.3	0.0	0.0
日本	n.a.	n.a.	0.0	0.2
ボスニアヘルツェゴビナ	0.0	n.a.	0.0	n.a.
ウズベキスタン	n.a.	0.0	0.0	n.a.
アルジェリア	n.a.	n.a.	0.0	n.a.
スイス	0.0	0.0	0.0	0.0
カザフスタン	n.a.	n.a.	0.0	n.a.
その他	0.4	0.0	0.0	0.1

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021年9月)を参考に作成。

それぞれ7万6,000t, 7万3,500t, 6万4,800t, 5万9,500tと、減少し続けている。その一方で、米国への輸出量は漸増している。2017~2020年の期間では、輸出量はそれぞれ2万6,500t, 2万7,500t, 3万3,300t, 3万3,700tとなっている。

英国の国内バター生産量は13万5,000t(2016年)である¹⁰⁾。英国の一人当たり年間バター消費量は、2010年の3.2kgから2016年、2017年では2.7kgに低下している¹¹⁾。一般的に食生活における健康志

向が強まり、植物性油脂への代替が進んでいると推察できる。それゆえ、英国向けバター輸出量は今後とも、さらに減少していく可能性がある。

また、表4から明らかなように、EU域外国からのバター輸入量でも英国が一貫して首位を占めている。2017～2020年の期間では、輸入量はそれぞれ2万900t、2万6,500t、4万100t、2万6,800tであった。バター輸出相手国として重要な地位にある米国からの当該輸入量は、2019年では300t、2020年では200tである。EUから米国への輸出量に比較して、圧倒的に少ない。世界的にはニュージーランドもバター輸出国であるけれども、2020年のEU輸入量は700tである。

Ⅲ. チーズ貿易

まず、EUのチーズの生産量と消費量を確認しておきたい。たとえば2020年では、生産量1,034万t、消費量946万tであった。生産量・消費量ともに世界では首位となっている。次位はロシアであり、生産量106万t、消費量136万6,000tであった⁸⁾。次に、EUのチーズ輸出入量を見ていきたい。表5は、

表5 EU加盟国別(除く英国)チーズ輸出量(2017～2020年)

	2017	2018	2019	2020
	(千t)			
ベルギー	13.6	12.8	16.7	50.0
ブルガリア	6.9	7.2	6.4	8.3
チェコ	5.8	4.7	4.6	5.1
デンマーク	74.8	73.0	74.7	137.3
ドイツ	123.1	130.4	136.3	222.7
エストニア	1.2	1.7	1.2	1.8
アイルランド	49.5	49.2	68.9	203.0
ギリシャ	9.1	9.9	10.2	24.1
スペイン	31.5	31.1	29.9	25.9
フランス	115.3	116.5	116.6	186.4
クロアチア	3.6	3.9	3.6	3.6
イタリア	100.0	100.2	109.3	147.2
キプロス	4.0	4.2	4.0	24.3
ラトビア	2.7	1.9	2.1	4.1
リトアニア	16.4	11.3	15.3	17.2
ルクセンブルク	0.2	0.4	0.5	1.2
ハンガリー	14.7	12.9	10.7	13.8
マルタ	0.1	0.7	0.0	0.2
オランダ	139.7	140.1	141.8	191.3
オーストリア	14.3	15.1	19.0	21.7
ポーランド	53.4	52.9	52.1	88.5
ポルトガル	5.1	4.3	4.3	3.2
ルーマニア	1.6	1.9	2.1	3.3
スロベニア	2.3	2.6	2.6	2.6
スロバキア	0.7	0.9	1.5	5.5
フィンランド	5.2	5.9	6.1	6.4
スウェーデン	1.3	1.1	0.9	1.4

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021年9月)を参考に作成。

英国を除く EU 加盟国別チーズ輸出量(2017~2020 年)を、表 2 は、英国を除く EU 加盟国別チーズ輸入量(2017~2020 年)を、それぞれ示している。

全体的に見れば、おしなべて EU 構成国が高付加価値乳製品であるチーズの輸出量を拡大させている傾向が、表 5 からは読み取れる。輸出量 10 万 t 以上の輸出上位国(2020 年)としては、ドイツ 22 万 2,700 t、アイルランド 20 万 3,000 t、オランダ 19 万 1,300 t、フランス 18 万 6,400 t、イタリア 14 万 7,200 t、デンマーク 13 万 7,300 t が挙げられる。注目すべきはアイルランドである。アイルランドのチーズ輸出量は、2017 年では 4 万 9,500 t、2018 年では 4 万 9,200 t、2019 年では 6 万 8,900 t であった。2020 年には対前年比約 2.9 倍強にまで輸出を伸ばしてきた。なお、ポーランドは 8 万 8,500 t と、やはり旧東欧諸国の中では最大の輸出量を誇る。

表 6 によれば、ドイツ、アイルランド、フランス、オランダなどの輸出上位国が一定規模の輸入をしている。たとえば、2020 年では、アイルランド 5 万 3,300 t、ドイツ 5 万 2,700 t、フランス 2 万 5,600 t、オランダ 2 万 1,900 t である。イタリア、デンマークも、それぞれ 1 万 3,400 t、1 万 1,900 t 輸入している。また、スペインは 1 万 3,400 t 輸入している。

表 6 EU 加盟国別(除く英国)チーズ輸入量(2017~2020 年)

	2017	2018	2019	2020
	(千 t)			
ベルギー	0.5	0.4	0.4	9.0
ブルガリア	0.1	0.1	0.1	1.1
チェコ	0.0	0.1	0.1	1.2
デンマーク	0.3	0.6	0.2	11.9
ドイツ	31.4	32.1	35.8	52.7
エストニア	0.0	0.1	0.0	0.1
アイルランド	0.0	0.0	0.0	53.3
ギリシャ	0.1	0.1	0.2	2.1
スペイン	0.4	0.3	0.4	13.4
フランス	5.0	4.0	4.5	25.6
クロアチア	0.9	0.9	0.9	1.0
イタリア	10.1	10.0	10.4	13.4
キプロス	0.0	0.0	n.a.	0.5
ラトビア	0.0	0.0	0.0	0.0
リトアニア	0.0	0.0	0.1	0.4
ルクセンブルク	0.2	0.2	0.3	0.6
ハンガリー	0.0	0.1	0.0	0.4
マルタ	0.1	0.1	0.2	0.5
オランダ	4.0	3.4	2.5	21.9
オーストリア	3.0	3.5	3.9	4.8
ポーランド	0.1	0.0	0.0	2.9
ポルトガル	0.0	0.0	0.0	1.6
ルーマニア	0.3	0.3	0.4	1.1
スロベニア	0.0	0.0	0.1	0.1
スロバキア	n.a.	0.0	0.0	0.2
フィンランド	0.1	0.0	0.0	0.2
スウェーデン	0.8	0.5	1.0	2.9

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021 年 9 月)を参考に作成。

それでは EU 域外国とのチーズ貿易量は如何なるものであろうか。表 7 は EU 域外チーズ輸出相手国(2017～2020 年)を、表 8 は EU 域外チーズ輸入調達国(2017～2020 年)を、それぞれ示している。

表 7 から明らかなように、英国が一貫して EU の輸出相手国として、首位の位置を占めている。その次には米国もしくは日本が続く。2019 年および 2020 年を見るならば、英国はそれぞれ 50 万 6,100 t、

表 7 EU チーズ域外輸出相手国(2017～2020 年)

	2017	2018	2019	2020
	(千 t)			
英国	478.6	482.3	506.1	491.5
米国	133.6	126.4	131.3	117.7
日本	94.7	106.4	113.7	128.1
スイス	59.9	61.3	62.1	69.3
韓国	44.8	37.2	42.1	53.0
サウジアラビア	38.9	32.9	34.9	42.5
オーストラリア	24.8	24.8	25.1	27.1
ウクライナ	10.0	13.9	23.7	46.7
アルジェリア	23.1	20.7	21.8	27.0
カナダ	14.3	18.8	21.5	24.4
中国	17.2	15.7	18.6	26.8
エジプト	13.1	14.5	18.3	19.8
モロッコ	12.7	14.4	17.1	21.0
ノルウェー	14.3	15.3	15.8	17.0
アラブ首長国連邦	15.8	16.2	15.8	15.7
その他	279.1	278.2	279.9	272.3

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021 年 9 月)を参考に作成。

表 8 EU チーズ域外輸入調達国(2017～2020 年)

	2017	2018	2019	2020
	(千 t)			
英国	133.4	140.1	150.4	161.5
スイス	51.4	51.3	54.5	55.3
ノルウェー	1.4	1.6	1.7	1.3
セルビア	1.0	1.2	1.5	1.6
ニュージーランド	2.0	1.2	1.4	0.1
アルジェリア	n.a.	n.a.	0.5	0.0
トルコ	0.1	0.3	0.4	0.8
ボスニアヘルツェゴビナ	0.3	0.3	0.3	0.4
米国	0.3	0.5	0.2	0.8
エジプト	0.0	n.a.	0.2	0.0
オーストラリア	0.7	0.2	0.2	0.7
カナダ	0.1	0.0	0.1	0.1
ロシア	0.0	0.0	0.1	0.1
アイスランド	0.1	0.1	0.0	0.0
日本	0.0	0.1	0.0	0.0
その他	0.3	0.2	0.1	0.3

出所) Milk Market Observatory より入手した資料(2021 年 9 月)を参考に作成。

49万1,500tであった。米国はそれぞれ13万1,300t, 11万7,700t, 日本はそれぞれ11万3,700t, 12万8,100tである¹²⁾。

また、表8から明らかなように、EU域外国からのチーズ輸入量でも英国が一貫して首位を占めている。2017～2020年の期間では、輸入量はそれぞれ13万3,400t, 14万100t, 15万400t, 16万1,500tであった。英国からの輸入量は年々増加している。英国のチーズ生産量は拡大傾向にある。2000年では30万2,000tであったが、2016年には40万4,000tと、10万t以上増加している¹³⁾。英国の一人当たり年間チーズ消費量は、2010年では11.7kgであった。2017年では11.8kgである¹⁴⁾。さほどの消費量増加は見られない。英国はチーズを輸出向け乳製品と位置づけていると推察できる。

最後に、EUとスイスの貿易関係に関して一言触れておきたい。2020年のチーズ輸出入を見るならば、EUからスイスには6万9,300t, スイスからEUには5万5,300tそれぞれチーズが輸出されている。それゆえ、EUとの相互依存関係は強いと言える¹⁵⁾。

IV. むすびにかえて—市場需給予測

まず、乳製品の原料となる生乳生産の将来的見通しについて見てみよう。表9は、EU生乳生産予測(2021～2030年)を示している。表9によれば、乳牛頭数は漸減傾向を予測している一方で、一頭当たり産乳量は漸増傾向を予測している。2021年では、乳牛頭数2,030万頭、一頭当たり産乳量7,529kgである。だが、2021年では、乳牛頭数は1,920万頭と110万頭減少するものの、一頭当たり産乳量は8,302kgと773kg増加すると予測している。当該予測は、生物学的化学的技術進歩(BC過程)に期待していると考えられる。

それらを前提として、生乳生産量を比較するならば、2021年の1億5,270万tから2030年には1億5,960万tにまで、4.5%以上増加すると予測している。そして、1t当たりEU域内生乳生産者価格は、319.5EURから382.1EURに上昇すると予測している。それは20%近い価格上昇率である。英国の生乳生産を除いても、EUは域内で生乳を安定的に供給するであろう。

表10はEUバター市場の需給予測(2021～2030年)を、表11はEUチーズ市場需給予測(2021～2030年)を、それぞれ示している。表10と表11を比較すれば、バター需給とチーズ需給の差は顕著である。言うまでもなく、圧倒的にチーズの存在が大きい。

2021年について見てみよう。生産量では、バター239万3,000tに対してチーズ1,060万7,000t、輸出量では、バター33万5,000tに対してチーズ146万3,000tである。価格面では、バターとチーズは共にEU域内市場価格よりも世界市場価格の方が高い。バターでは340EUR/t、チーズでは66EUR/tの価格差がある。圧倒的に輸出量ではチーズの方が多いため、輸出戦略としてはチーズに優位性がある。

表9 EU生乳生産予測(2021年～2030年)

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
乳牛頭数(百万頭)	20.3	20.1	20.0	19.9	19.8	19.7	19.6	19.4	19.3	19.2
産乳量(kg/頭)	7,529	7,617	7,704	7,790	7,876	7,962	8,047	8,133	8,218	8,302
生乳生産量(百万t)	152.7	153.3	154.1	154.9	155.8	156.6	157.3	158.1	158.8	159.6
生乳出荷量(百万t)	146.1	147.1	148.1	149.3	150.4	151.5	152.6	153.6	154.7	155.7
EU域内生乳生産者価格(EUR/t)	319.5	336.3	342.3	347.3	352.8	358.4	364.6	370.5	376.7	382.1

出所) European Commission, *EU Agricultural Outlook for Markets, Income and Environment 2020-2030*, December, 2020. p.75 を参考に作成。

表 10 EU バター市場需給予測 (2021 年～2030 年)

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
生産量(千 t)	2,393	2,405	2,414	2,425	2,438	2,449	2,456	2,463	2,469	2,476
輸入量(千 t)	53	53	53	53	53	53	53	54	54	55
輸出量(千 t)	335	346	349	354	361	366	368	370	371	372
消費量(千 t)	2,111	2,112	2,118	2,124	2,130	2,135	2,141	2,147	2,152	2,158
1人あたり年間消費量(kg)	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8
EU 域内市場価格(EUR/t)	3,114	3,260	3,287	3,301	3,326	3,358	3,392	3,425	3,454	3,477
世界市場価格(EUR/t)	3,454	3,558	3,589	3,599	3,621	3,659	3,702	3,743	3,780	3,805

出所) European Commission, *EU Agricultural Outlook for Markets, Income and Environment 2020-2030*, December, 2020. p.76 を参考に作成。

表 11 EU チーズ市場需給予測 (2021 年～2030 年)

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
生産量(千 t)	10,607	10,641	10,710	10,771	10,824	10,895	10,985	11,079	11,169	11,253
輸入量(千 t)	208	211	214	217	222	224	226	226	227	228
輸出量(千 t)	1,463	1,492	1,523	1,543	1,557	1,586	1,633	1,684	1,730	1,772
消費量(千 t)	9,352	9,380	9,410	9,445	9,489	9,534	9,578	9,622	9,665	9,709
1人あたり年間消費量(kg)	20.9	20.9	21.0	21.1	21.2	21.3	21.4	21.6	21.7	21.8
EU 域内市場価格(EUR/t)	3,023	3,121	3,186	3,242	3,301	3,367	3,439	3,511	3,581	3,647
世界市場価格(EUR/t)	3,089	3,166	3,212	3,248	3,292	3,339	3,385	3,431	3,475	3,513

出所) European Commission, *EU Agricultural Outlook for Markets, Income and Environment 2020-2030*, December, 2020. p.76 を参考に作成。

このような傾向は 2030 年まで変わらない。新興国の所得増加や途上国の人口増加からは、乳製品の EU 域外貿易も拡大するであろう。粉乳や脱脂粉乳の輸出も含めて EU 酪農部門は生乳生産および乳製品輸出において、世界的には従来どおり重要な位置を占め続けるであろう。

一人当たり年間バター消費量は、2021～2030 年の期間において 100 g しか増加しないと予測されている。他方、一人当たり年間チーズ消費量は、同期間において 900 g 増加すると予測されている。旧東欧諸国の所得増加が背景にあると、筆者は推測する。ポーランドを除いて旧東欧諸国の酪農産業は発展途上である。したがって、それは西欧諸国が成熟段階を迎えているにもかかわらず、EU 域内チーズ貿易の拡大を意味する。

最後に、バターとチーズの貿易からは、EU を離脱後の英国は、EU にとって重要な市場であることに変わりはない、と筆者は考える。逆に、英国にとっても EU は重要な地域であることに変わりはない。

注

- 1) Brexit は Britain と Exit の合成語であり、広義に EU 離脱の国民投票、離脱決定、およびその後の政治過程全般を意味する。英国の EU 離脱の根本的な理由は、政治の問題であった。「英国が EU の連邦的統合深化を拒絶したことにある。EU 統合の本質は、国家の主権的権限の EU への大規模な譲渡と制限にある。英国はナショナルの価値を優先し、EU 離脱という究極のカードでこれを拒否した」(児玉(2021)p.248)。
- 2) CAP に関しては、さしあたり平岡(2020)を参照のこと。
- 3) 英国が EC に加盟する際に、英国独自の酪農政策と CAP との整合性を図る調整過程に関する事例として、生乳生産者協同販売組織であったミルク・マーケティング・ボード(Milk Marketing Board)の組織と機能に関する議論が挙げられる。この点について詳しくは、平岡・小林(1989)を参照されたい。
- 4) 生乳集荷量(2020 年)で見ると、首位ドイツ 3,255 万 2,120 t、次位フランス 2,468 万 5,230 t(暫定値)、そして英

- 国1,542万8,590t(2019年)であった。その後、オランダ1,398万6,700t、イタリア1,255万6,460t、ポーランド1,246万4,780t(暫定値)が続く(Milk Market Observatory(2021)p.2)。
- 5) 英国は伝統的に「安価な食料」志向であり、英連邦諸国からの食料輸入依存度が高かった。なお、食料・飲料・飼料に関する英国の対EU貿易に関しては、平岡(2021)pp.7~8を参照のこと。
 - 6) 1984年4月1日から導入され、2015年3月31日をもって廃止された生乳クォータ制度(Milk Quota System)の下において、英国酪農業は構造調整を進めて、生産性を向上させたのである。なお、この生乳クォータ制度の目的は、生乳と乳製品の過剰生産を抑制して、生乳供給量を市場需要量に均衡させることにあった。生乳クォータ制度が酪農構造に与えた効果と英国酪農の対応に関しては、平岡(2015)を参照のこと。
 - 7) 牛乳・乳製品輸出量(2020年)で見ると、上位3カ国・地域は、EU2,573万5,000t、ニュージーランド1,986万8,000t、米国1,206万9,000tである(FAO(2021))。
 - 8) 主要国のバター生産量・消費量の比較に関しては、さしあたりUSDA(2022)を参照のこと。
 - 9) 主要国のチーズ生産量・消費量の比較に関しては、さしあたりUSDA(2022)を参照のこと。
 - 10) 平岡(2021b)p.13。
 - 11) 平岡(2021a)pp.47~48。
 - 12) 2017年7月6日に発表された日EU経済連携協定(EPA)の大枠合意の中で、相互の地理的表示(GI)制度を認め合うこととなった。これは、伝統的なチーズ生産を行ってきたEUに有利に働いている。
 - 13) 平岡(2021b)p.13。
 - 14) 平岡(2021a)pp.47~48。
 - 15) スイスと国境を接している国はすべてEU構成国であり、EU諸国とは関係構築がなされている。スイスはノルウェーと同様にEU非加盟国である。それに加えて、ノルウェーが参加している欧州経済領域(EEA)にも加わっていない。スイスは1992年にEU加盟を申請したものの、国是である永世中立政策との整合性を巡って国内では大論争が起こった結果、EU加盟申請を取り下げた経緯がある。

参考文献

- [1]平岡祥孝・小林康平(1989)「EC共通農業政策の確立過程—イギリスのミルク・マーケティング・ボードの取り扱いをめぐって—」『日本EC学会年報』第9号 pp.177~201。
- [2]平岡祥孝(2015)「EU生乳クォータ制度に関する経済分析—イギリス酪農業を事例として—」『日本EU学会年報』(日本EU学会)第35号, pp.274~298。
- [3]平岡祥孝(2016)「EU主要乳製品輸出の動向」『日本EU学会年報』(日本EU学会)第36号, pp.95~120。
- [4]平岡祥孝(2018)「EU乳製品貿易に関する一考察」『札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要』第48号, pp.45~56。
- [5]平岡祥孝(2019)「英国酪農部門に関する現状分析」『札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要』第49号, pp.55~64。
- [6]平岡祥孝(2020)「共通農業政策」鷲江義勝編著『EU欧州統合の現在第4版』所収 pp.168~176。
- [7]平岡祥孝(2021a)「近年の英国における飲用牛乳に関する一考察」『札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要』第51号, pp.43~56。
- [8]平岡祥孝(2021b)「英国の主要乳製品貿易に関する一考察—EUとの貿易を中心に—」『消費経済研究』(日本消費経済学会)第10号, pp.3~19。
- [9]児玉昌己(2021)『現代欧州統合論—EUの連邦的統合とイギリス—』成文堂。
- [10]鶴岡路人(2020)『EU離脱—イギリスとヨーロッパの地殻変動—』筑摩書房。
- [11]DEFRA(2021) *Agriculture in the United Kingdom*.
- [12]European Commission(2021) *Short-Term Outlook for EU Agricultural Markets*.
- [13]FAO(2020) *Food Outlook*.
- [14]Milk Market Observatory(2021) *Annual Production Series of Dairy products*.
- [15]USDA(2020) *Dairy: World Market and Trade*.